

障害者の工賃「倍増計画」

関西福祉大(赤穂市)の学内喫茶店で働く障害者の報酬倍増を目指し、同大学社会福祉学部2年生14人が1年がかりで改善策の研究に取り組んだ。成果をまとめた提言を、同大学で21日あった報告会で発表した。



提言を発表する有田ゼミ生＝関西福祉大

関西福祉大生 1年かけ研究・提言

学内の「喫茶タイム」は、知的障害者の働く場として家族らの組織で運営している。働く人は労働者ではなく、訓練を受ける利用者という立場のため、賃金の代わりに収益から「工賃」が分配されるが、時給に換算して200円以下。障害者年金もあるとはいえ、収入水準は低い。研究に取り組んだのは有田伸弘准教授のゼミ生14人。自分たちのアルバイト代にも程遠い工賃に驚き、ゼミで取り組むテーマを「喫茶タイム工賃倍増計画」とした。

ボランティアで店を手伝う一方、聞き取りやアンケートなどで調べたところ、学外からの利用者がほとんどいないことなどが判明。改善点として、地域へPRする▽昼だけでなくティータイムも営業する▽夏休みなど長期休暇中も開店する――などを提言した。タイムのスタッフは「ありがたい提言。課題をクリアして、できるだけ採り入れたい」と話す。

指導した有田准教授は「次の2年生にも引き続き取り組んでもらい、倍増できるかどうかを見守りたい」と期待する。

(中村正夫)

2014. 1. 22

朝日新聞

本学関係者のみに配布しています。
複写等のご遠慮ください。